

平成28年11月1日号(No.169)

「 チームビルディング 」

伊丹市立総合教育センター
所長 後藤 猛虎

かなり昔の話ですが、先輩教師から、「学級をグループからチームにすることが大事だ」と教えてもらったことがあります。当時はその意味がよくわかりませんでした。チームとグループ。似ているようで大きな違いがあります。「グループ」は、特定の目標を達成するためにだけ集まった複数の人々です。そのため、個人が成果を収めることが多いようです。一方「チーム」は、共通の目的、達成目標、アプローチを共通理解し、その達成のためにお互いが熱い気持ちを共有し、責任を分担する複数人の集まりです。そのため、チームには一体感が生まれ、大きな共同成果を生み出すことができるのです。「グループ」を「チーム」として機能するようにするのが**チームビルディング**です。



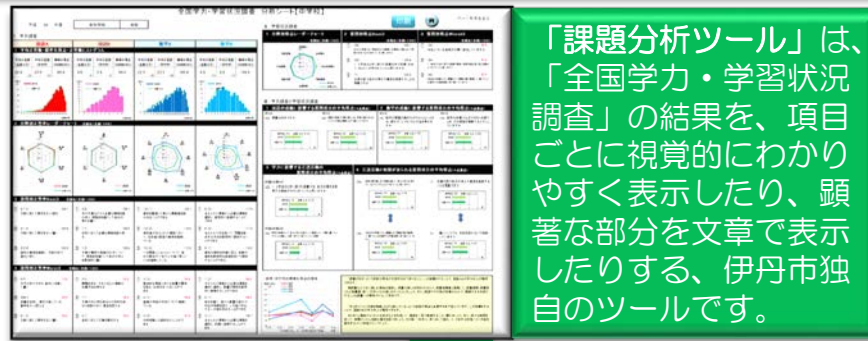
チームビルディングのためには、1つ目として、困難なゴールでも、皆が目的を理解すること。2つ目に、ゴールに向かう思いを一つにすること。3つ目に、皆がなんとしても達成しようという強い責任をもつことが必要だといわれます。

このチーム力で表彰台に上がったのが、パラリンピックの女子視覚障害マラソンで銀メダルを獲得した「道下美里」選手です。レース本番は2人の伴走者が交代で42.195kmをカバーします。しかし、普段の練習では、道下さんの練習時間にあわせて付き添いを務めるランナーは10人以上にも上ります。その他にも多くの支援者が給水など様々な役割を責任をもって担っています。走る前の「みんなでメダルを取るといふ気持ちで挑戦したい」との言葉どおりの力走です。これが「チーム道下」といわれる所以です。

さて、中教審の答申で「チームとしての学校」という言葉が出てきました。答申によると「学校が教育課程の改善等を実現し、複雑化・多様化した課題を解決していくためには、『チームとしての学校』を作り上げていくことが大切である。そのため、教員に加えて、多様な専門性を持つ職員の配置を進めるとともに、教員と多様な専門性を持つ職員が一つのチームとして、それぞれの専門性を生かして、連携・分担する必要がある」ということです。これは単にSC、SSW、部活動指導員、地域人材等、専門スタッフを学校に配置すればよいというものではないのです。チームビルディングが必要なのです。校長のリーダーシップのもと教職員、専門スタッフが、チームとしての目的、目標をしっかりと共有し、それぞれが責任を果たす組織へと変わらなければ、本物の「チーム学校」にはならないのです。

学習状況調査結果から ~課題と改善点を考える~

平成28年度の全国学力・学習状況調査の結果が、9月29日(木)に公表されました。伊丹市の学習状況調査の結果において、課題が見られた項目と、改善のための取り組み例をお知らせします。併せて、先日配付しました「分析ツール」を用いて担任する学級を分析し、学校での指導にお役立てください。



「課題分析ツール」は、「全国学力・学習状況調査」の結果を、項目ごとに視覚的にわかりやすく表示したり、顕著な部分を文章で表示したりする、伊丹市独自のツールです。

【生活・学習習慣に関する調査】から

質問事項	小学校		中学校	
	伊丹市	全国	伊丹市	全国
毎日、同じくらいの時刻に寝ている	84.9	87.3	79.5	83.3
学校の授業の予習をしている	37.8	43.3	29.1	34.2
学校の授業の復習をしている	47.5	55.2	43.7	51.0

改善点

○生活リズムの改善

- ・時間を守るというルールを徹底する
- ・体育の時間や休み時間等、適切な運動量を確保する
- ・長期休暇や連休の際は、生活チェック表の配付や、生活の仕方について学ぶ時間を設定する等、生活リズムが乱れないよう支援する
- ・早寝早起きの有用性を伝え、家庭におけるテレビ・携帯・ゲーム時間のルール等を保護者と相談し、設定する

○予習・復習の習慣化

- ・「みんなの学習クラブ®タブレット版」の活用等、家庭学習を充実させる
- ・次の授業を想定した宿題を設定する
- ・子どもが意欲を持って取り組める自主学習を設定する
- ・定期的な確認テストを実施する
- ・家庭における学年毎の学習時間の目安や、学習への取り組み方法等を保護者と連携し、推進する



小学校：国・算
中学校：国・社・数・理・英
計5000枚以上のプリント

「みんなの学習クラブ®タブレット版」は、総合教育センターホームページからアクセスし、IDとパスワードを入力することで、家庭でも各単元のプリントを用いて学習できるシステムのことで、

【学習意欲に関する調査】から

質問事項	小学校		中学校	
	伊丹市	全国	伊丹市	全国
学校に行くのは楽しいと思う	83.9	86.3	81.6	81.4
算数<数学>の勉強は好きだ	61.0	66.0	53.0	56.0
読書は好きだ	72.0	74.6	65.2	69.9

改善点

○楽しく、安心できる学級づくり

- ・休み時間に教師や友だちと一緒に遊ぶ時間を設定する
- ・行事や学級活動で仲間と1つのことに取り組む経験を積ませる
- ・授業において、子どもが意欲を持って取り組める学習活動を設定する
- ・ルールを明確に示すとともに徹底し、誰に対しても平等なクラスを作る

○「わかる」授業の実践

- ・めあての提示によって「何を学ぶのか」を明確に示す
- ・ふりかえりの時間の設定によって「何を学んだのか」を確認する
- ・ICTを活用し、視覚的・聴覚的に分かりやすい指導をする
- ・個々に合わせた補充学習によって、学習のつまずきを解消する

○読書の時間の充実

- ・朝読書等、定期的な読書の時間を確保する
- ・学校司書と連携し、本を紹介したり、学級文庫を充実させたりする
- ・ビブリオバトルや読書紹介カードなど、読書活動の充実を図る
- ・読書の時間のルールの徹底等、読書に集中できる環境をつくる

学習状況の向上には、毎日の積み重ねが必要です。
「やるべきことをやる。当たり前前水準をあげる。」
ことを続けていきましょう。

課題の把握と改善に向けて

【自尊感情に関する調査】から

質問事項	小学校		中学校	
	伊丹市	全国	伊丹市	全国
ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある	93.8	94.4	93.3	94.3
自分にはよいところがあると思う	74.2	76.3	70.4	69.3
将来の夢や目標を持っている	83.0	85.3	68.2	71.1

改善点

○子どもが最後までやりきるための支援

- ・教師がめざす子ども像を明確に持ち、つまずきのある子どもへの確かな学習支援や助言を行う
- ・授業や学校生活において、徹底して集中するとき、思い切り遊ぶ時といった、メリハリのある指導を行う

○子どもの自尊感情を高める

- ・子どもの良い所を見つけ、ほめることを心がける
- ・日記やワークシートに、よかった部分や成長したことをコメントする
- ・話し合いや発表等、自分の意見を伝える場の設定を行う

○子どもに将来の夢や目標をもたせる

- ・「キャリア学習」の中で、夢や目標に近づくための具体的な方法を指導する
- ・子どもに様々な経験を積み、物事への適性を認識させる

平成28年第4回伊丹市議会における質問

平成28年第4回市議会（9月議会）での質問から「学力向上への取組」についての質問趣旨及び伊丹市教育委員会の答弁を抜粋、要約して紹介します。

【質問趣旨】

経済格差と学力格差が関連するという報告が研究機関などから出されるなか、学力格差是正を踏まえた学力向上に向けた取組についてどのように検討しているのか

【答弁内容抜粋】

（学校教育部長答弁）（前略）国際化、情報化が加速度的に進行し、社会環境が大きく変化している現代社会を生き抜く子どもたちには、様々な課題に立ち向かい、その課題を解決する力が求められています。このような状況の下、子どもたちの確かな学力を育むことは、教育委員会として最重要課題と捉えているところです。



（中略）学力格差の是正を踏まえた学力向上の取組についてですが、まずは、授業改善が必要だと考えております。「楽しい・わかる授業」の創造によって、子どもの**学習意欲の向上**を図ってまいります。また、**アクティブ・ラーニング**を取り入れ、**基礎的・基本的な学習内容を定着**させるとともに、学習した内容を活用し、**自ら課題を発見したり、活用したりする力**を育てまいります。さらに、教えっぱなしではなく、**子どもに教えたことが定着しているかをこまめにチェック**し、学習した内容の確実な定着に取り組んでまいります。

2つ目は、全ての教育活動を通して、将来の夢や目標を自ら見いだす力を育み、自分の目標に向かって学び続ける心を育成する「**キャリア教育**」を充実し、**子どもたちの学びに向かう力**を育ててまいります。

3つ目としましては、個々の子どもたちの課題に応じたきめ細やかな指導は不可欠です。そこで、少人数による授業や複数教員による指導、放課後学習等の個別指導の時間を確保し、**個に応じた指導**をより充実させてまいります。さらに、学力向上支援教員や放課後学習推進事業指導員、また、教員を目指す大学生による子どもサポーター等を活用し、**一人ひとりの子どもに対応した丁寧な指導**を継続して行ってまいります。

一人ひとりの子どもの置かれている環境も学力に大きな影響を与えることから、個別の支援が必要な子どもたちが、経済格差等、家庭環境に左右されることなく、安心して学習に向き合えるよう、全校に配置しているスクールカウンセラーや環境の改善を図るスクールソーシャルワーカーを活用し、学力向上に取り組んでまいります。

今後も、学校・家庭・地域総がかりの教育を推進し、**子どもたちに確かな学力を身につけ、自分の未来を切り拓いて、たくましく生き抜いていく力を育む**よう努めてまいります。